

平成30年7月豪雨に際し日本災害医学会災害医療コーディネータースポーツチームとして倉敷市に派遣されました (2018/7/20-23)

テーマ：平成30年7月豪雨、倉敷地域災害保健復興連絡会議（KuraDRO）、日本災害医学会災害医療コーディネータースポーツチーム

場所：岡山県備中県民局（岡山県倉敷市）

2018年7月20日(金)～23日(月)、平成30年7月豪雨に際し、佐々木宏之助教（災害医学研究部門 災害医療国際協力学分野）が日本災害医学会災害医療コーディネータースポーツチームメンバーとして岡山県倉敷市の倉敷地域災害保健復興連絡会議（通称：KuraDRO）に派遣されました。

岡山県倉敷市真備町は平成30年7月の豪雨で町の約1/4が浸水し、地域住民の生活に加え地域医療体制にも大きな被害が発生しました。真備町内の医療体制の核となるまび記念病院が浸水し、周辺のクリニック・診療所、薬局なども浸水したため、町内の住民は自宅に加え通うべき医療機関も喪失しました。KuraDROは「倉敷市、総社市の保健医療従事者を支え、地元保健医療従事者にお返しする」を活動ポリシーに、厚労省、県担当者、備中・倉敷市保健所関係者、地域災害医療コーディネーター、各団体医療救護班などが1箇所に集結し、倉敷・総社エリアの情報共有・分析、作戦立案・実行を担い地域医療体制のサポート、避難住民の健康管理に努めました。

佐々木助教はKuraDRO本部内において、各団体から派遣されてくる医療救護班のスケジュール調整、医療ニーズ把握を担当しました。医療救護班を派遣する団体は日本赤十字社、日本医師会（JMAT）、全日本病院協会（AMAT）、県内医療救護班、HuMA（災害人道医療支援会）をはじめとするNPOなど数多く、これらのチームが組織的に活動するには担当エリアや活動時間などの調整が必要です。佐々木助教は各団体の統括者と連携を取りながら、担当エリアの決定・チーム配分、救護班から集まるリアルタイムな医療ニーズの収集を行いました。

KuraDROは7月22日(日)に活動を終了し23日(月)から事後の活動を備中県民局・備中保健所を中心とした県南西部災害保健医療活動調整本部に引き継ぎました。撤収を見越し災害時健康危機管理支援チーム(DHEAT)と共同で作業にあたり、23日当日は大きな混乱もなく業務を引き継ぐことができました。

津波と洪水の差はありますが浸水での被害は東日本大震災と同様で、将来の南海トラフ地震対応へもつながります。今後も災害科学国際研究所の知見を活用し、被災地・未災地への貢献につなげていきます。



KuraDRO 関係機関



関係団体コア会議



救護班調整を行う佐々木助教
(左から2人目)



まび記念病院前
バスを用いての仮診療



避難所-医療機関を結ぶ
巡回バス



真備支所前救護所（屋外）
暑い